

保莉明義さん(黒鳥四)が..... 中国の農業を視察し、帰国



上海の加定東城東人民公社で働く農民

新潟県農業者友好訪中団の一員として、昨年十一月六日から十三日にかけて、本町を代表して保莉明義さん(黒鳥四)が、無錫(黒鳥)と上海各地の農業視察を行い、友好親善を深め帰国しました。

これは一昨年、県知事が訪中した際、友好親善をさらに深める意味で、新潟県の農業青年との文化交流の約束を果たしたものです。

今回は県農協中央会会長を団長とし、県内の市町村から選ばれた農業青年や中核農家の百十八名と随員を含めた百二十九名の農業関係者が中国を訪問したものです。

今回、保莉さんから感想文を寄せていただいたので、一紹介します。

新潟県農業者友好訪中団に参加して

私が今回、中国訪問をして、農業に於いて相違を感じた事に、人民公社がある。人民公社とは、農場と農協をいっしょにしたような所であり、集団生産組織である(正確には商業・教育・文化・軍事・および行政機能をも備える)。私たちが上海市三ヶ所、無錫県二ヶ所の人民公社を見学したが主に米作・養鶏・畜産・養蚕・綿作に関してでした。一つの人民公社は一万五千人から二万人の村らによってできており、私の行った人民公社は95の生産隊からなっており、機械をあつかう者米作を行う者綿作に関係する者の班のようなものである。その構成員の社員は給料制で、三、四ヶ月ごとに点数の標準を決め、それによって給料が決定される。一応ノルマというものもある。これは労働意欲を高めようとするものだが、それほど差がでるものでもない。しかし、実力のある人は認められ農民大会などで、役員に選出され、自分の能力を発揮できる。

そして幼稚園、小学校、中学校も人民公社内にあるという事で、国の補助もあり、非常に生活費が安い。二ヶ所の家庭訪問をさせてもらい、日本と中国との家庭農業の違いを、知ることができた。家族は、六人前後で、年間収入が千二百元日本円にすれば(十八万六千円)月の家計費が三十元(四千六百五十円)で非常に安く電気、水道費を合わせても月三百円程度である。



県花チューリップの球根を記念に植える団員

国から借りる自留地というものが、農民一人あたり二、三アタえられる。そこからできる作物は決まった市場で自由に売ることが出来る。国から割り当てられる生産量というものがあって、それ以上の超過作物は、国が割高に買ってくれるという利点もある。また人民公社同志の生産量の競争も、結果として生産量の向上を促すものである。

こんどは中国の稲作について二三述べてみたいと思います。①雪が少なく、気温も温かい関係で三毛作であり、米が一回と麦かナタネが一回である。雨量が非常に少ないので収穫時の乾燥は楽である。②農作業の面では、機械化が遅れていて農繁期では、朝七時〜夜十時頃まで作業をしている。

現在の日本と比べて、中国の方が重労働である。③収穫は、もみの計算で、一回目反当り四五〇kg、二回目を合すると九五〇kgくらいであり二回合せて、日本の一毛作よりも少し多い程度である。④稲ワラは全量堆肥にして、環元している。この事は見習って良いと思います。

正直に言って中国を訪問する前中国についての知識は、本、新聞その他、実際に訪中した人から聞いた、あらゆる面で、日本に二十一年遅れているということだったが、文化革命後、いわゆる四つの近代化を唱え、人口十億近いと言った人間をかかえ、日本とは実情の相違を感じざるをえなかった。現在あらゆる面で発達段階にあり、これから大きく変わりつつある。農業に於いて言えば、ただ機械化すればよいという訳にはいかず、人口にあつた農作業をしている。また中国の人は非常に働き者で、朝早くから夜遅くまで働いている。しかし、休日には、人民公社内の映画館やその他の公園で余暇を過ごすという。中国の人は非常に心も強く、向上心が強く、また好奇心も強く、日本の農業について、いろいろと人民公社やその他の人達と意見交換を長時間した際にも、それがうかがわれた。そして何よりも日本に対して、友好的で、特に田中角栄元総理の出身地である新潟県の訪中団である、私達は非常に歓迎された。

最後に、訪中を通じて、色々の事を学び経験して非常に有意義であったと思ふ。そして私の訪中に際して、ご支援、ご協力下さった皆様にお礼申し上げます。

国民年金の現況届が変更 誕生月の末日までに!!

国民年金の老齢年金(通称老齢年金)を含むの事務は、東京の社会保険庁で行われています。

年金は、みなさんが裁定請求の際に希望した金融機関を通して、年に四回(通算老齢年金は年に二回)支払われます。

この年金の支払い額は、社会保険庁が毎年みなさんの生存を確かめたうえで行われています。みなさんが、年金を引き続き受けるためには、年一回、社会保険

現況届(国民年金受給者現況届)といふ届を提出する必要があります。昭和五十四年二月十五日以前から年金を受けている人は必ず提出する必要があります。

現況届の用紙(ハガキ)は誕生日の前月ごろまでに、社会保険庁から受給者あてに直接郵送されます。受給者のみなさんは、その用紙に住所・氏名を記入し押印



現況届(国民年金受給者現況届)といふ届を提出する必要があります。昭和五十四年二月十五日以前から年金を受けている人は必ず提出する必要があります。

現況届の用紙(ハガキ)は誕生日の前月ごろまでに、社会保険庁から受給者あてに直接郵送されます。受給者のみなさんは、その用紙に住所・氏名を記入し押印

たばこ一本につき 一円二十四銭が町入



皆さんは毎日喫っているたばこを何処でお買いになりますか。たばこ消費税という税金は地元の小売店で販売されたたばこは、地元税金として町に納入されてくるしくみになって町入です。

私達が町内で買ったたばこ一本当り一円二十四銭という額で計算されて、毎月専売公社から役場に納

訂正

前号 三ページ中、種村 清さんが優秀賞を獲得とありましたが、種村 博さんの誤りでした。訂正し、おわびいたします。

私も一言 地方の時代と商工業

私は当町におきまして商売をさせてもらっている者でございます。最近ではモーターゼーションの発達で私共個人商店がいくらか減りつつも限度があります。と申しますのは、地域対地域(①タイエー地域、②古町地域、③シャスコ地域、④小針地域、⑤白根地域)の地域競争で顧客はその五地域に吸収されている状態でございます。私達商工業者は地元と共々歩み続け、のれんを守り、地域の中でがんばってまいりました。それだけに地域社会(黒

十二月の短歌

年ごとに君が恋の菊の花目をも心も洗ひ清めん 柏 直樹地
 わらわを廻る如くに射る陽に苦の朝霧つきつきと消ゆ 平松清次郎
 雪のなき冬の庭池離れて困いの中に浅れ陽浴びあり 松沢 虎男
 職を得し事を告げ来て帰るゆく義妹は子を連れ足どり軽し 阿部 淳子
 八十歳を過ぎて米寿に挑む吾が旅路けわしき冬のあけくれ 青木 留吉
 雨降ちぬ日はなし夕陽城が空に明日を託せり 酒井 庄平
 新しき片葉をひもとけば師の面影のまのあたり見ゆ 小出美喜子
 適齢期の二人の子供を残し逝く母を憶びて遺影にむせぶ 泉井 ヨ子